

JCI Junior Chamber International Tsukushi
50th ANNIVERSARY
Memorial magazine



一般社団法人 つくし青年会議所



INDEX

目次

- | | | | |
|-----------|---|-----------|---|
| 01 | 青年会議所とは
設立スローガン | 14 | 公益社団法人日本青年会議所
九州地区協議会 2021年度会長 祝辞 |
| 02 | JCI Creed, JCI Mission, JCI Vision
J C 宣言・綱領 | 15 | 公益社団法人日本青年会議所
九州地区福岡ブロック協議会
2021年度会長 祝辞 |
| 03 | 創始の精神 | 16 | スポンサー青年会議所
一般社団法人福岡青年会議所
2021年度理事長 祝辞 |
| 04 | 一般社団法人つくし青年会議所
第50代理事長 挨拶 | 18 | 50年の歩み
・歴代理事長ならびに1972～2011年度紹介 |
| 06 | 筑紫野市長 祝辞 | 24 | 50年の歩み
・歴代理事長ならびに2012～2020年度紹介 |
| 07 | 春日市長 祝辞 | 34 | 設立50周年運動方針 |
| 08 | 大野城市長 祝辞 | 36 | 設立50周年記念事業報告 |
| 09 | 太宰府市長 祝辞 | 38 | 設立50周年記念式典 |
| 10 | 那珂川市長 祝辞 | 40 | 会員一覧（正会員） |
| 11 | 一般社団法人つくし青年会議所
シニアクラブ名誉会長 祝辞 | 46 | 会員一覧（シニアクラブ会員並びに賛助会員） |
| 12 | 一般社団法人つくし青年会議所
シニアクラブ会長 祝辞 | 48 | 一般社団法人つくし青年会議所
設立50周年実行委員会 実行委員長 謝辞 |
| 13 | 公益社団法人日本青年会議所
第70代会頭 祝辞 | | |



青年会議所とは

青年会議所（J C）は“明るい豊かな社会”の実現を同じ理想とし、次代の担い手たる責任感を持った20歳から40歳までの指導者たるとしての青年の団体です。青年は人種、国籍、性別、職業、宗教の別なく、自由な個人の意思によりその居住する各都市の青年会議所に入会できます。

70余年の歴史を持つ日本の青年会議所運動は、めざましい発展を続けておりましたが、現在691の地域に約29,350人（2021年11月現在）の会員を擁し、全国的運営の総合調整機関として日本青年会議所が東京にあります。全世界に及ぶこの青年運動の中核は国際青年会議所ですが、118カ所の国及び地域に105NOM（国際青年会議所）があり、約150,000人（2020年12月現在）の会員が国際的な連携を持って活動しています。

日本青年会議所の事業目標は、“社会と人間の開発”です。その具体的事業としてわれわれは市民の共感を求める社会開発計画による日常活動を展開し、「自由」を基盤とした民主的集団指導能力の開発を推し進めています。さらに日本の独立と民主主義を守り、自由経済団体の確立による豊かな社会を創り出すため市民運動の先頭に立って進む団体、それが青年会議所です

公益社団法人日本青年会議所2021年度スローガン

Idea & Action
光を放つ起点となろう！

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

一般社団法人つくし青年会議所設立スローガン

自然と歴史と人間との調和
～つくしは一つ～



The Creed of Junior Chamber International

We Believe:

That faith in God gives meaning and purpose to human life;
That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations;
That economic justice can best be won by free men through free enterprise;
That earth's great treasure lies in human personality;
and That service to humanity is the best work of life.

我々はかく信じる：

「信仰は人生に意義と目的を与える
人類の同胞愛は国家の主権を超越し
正しい経済の発展は自由経済社会を通じて最もよく達成され
政治は人によって左右されず法によって運営されるべきものであり
人間の個性はこの世の至宝であり
人類への奉仕が人生最善の仕事である」

JCI Mission

To provide development opportunities that
empower young people to create positive change

積極的変革を創造するのに必要な力を
培う機会を若者に提供する。

J C 宣言

日本の青年会議所は
希望をもたらす変革の起点として
輝く個性が調和する未来を描き
社会の課題を解決することで
持続可能な地域を創ることを誓う

JCI Vision

To be the leading global network of
young active citizens.

若く活動的な市民の
優れた世界ネットワークであり続ける。

網 領

われわれ J A Y C E E は
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者、相集い、力を合わせ
青年としての
英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築きあげよう

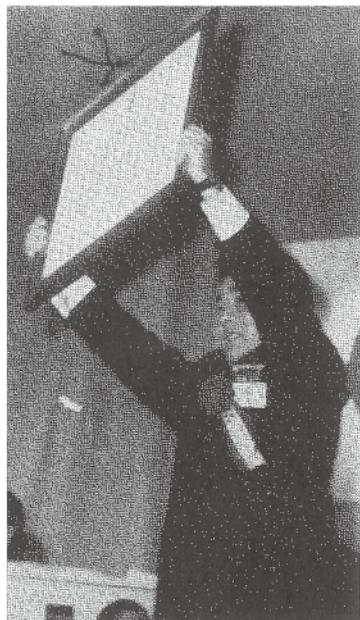


創始の精神

自然と歴史と人間との調和



—— 華やかに
つくし J C 認承証伝達式
挙行さる ——



自然と歴史と人間との調和のテーマを掲げ「明るい豊かな社会づくり」を目標にした、春日・大野城・筑紫野の三市と太宰府・那珂川の二町の地域民情を等しくする旧筑紫郡を母体とした若者たちの集まりであるわが“つくし J C”は晴れて日本青年会議所第五二一号正会員として認められた。

その栄えある認承証伝達式と記念の催しを、一九七三年四月一日、日本 J C 佐藤会頭九地協洞会長 ブロック協議会大賀会長をはじめ各地元市長、ロータリークラブやライオンズクラブの先輩各氏の来臨、全国各地 J C の仲間五五〇余名の参集を得て盛大に行なった。式は、大野城市中央公民館を会場にして、来賓の心温まる励ましの言葉を受け一同よろこびと感動のうちに加藤理事長への認承証授与が行われた。また、記念事業として、新設の九州歴史資料館へ館内案内板を寄贈した。

終わりに、つくし J C 誕生までの歩みが述べられ、生みの親である大神直前理事長の尽力に対して謝意が述べられ、一同友好のコロコロあふれる中に式典を閉じた。

続いて、われらのテーマである「自然と歴史と人間との調和」と題する黛敏郎氏の講演が行われた。黛氏は、J C にはそれぞれの風土性がなくてはならず、その意味で、つくしほど史蹟に富んだところはなかろう。特に当地は偉大な歴史と自然を有する地域であるということができる。このつくしに J C が誕生したことは意義深く、“自然と歴史と人間との調和”というスローガンは全く素晴らしい音色を持った言葉の響があり、未来永劫にこの言葉を残すべきである。と語り、つくし J C 全員はよく修練し、互いに友情を温めあいつつ、この責任を自覚して邁進されることを期待する。と語った。(講演要旨)

さらに第二部は、会場を太宰府天満宮に移し、数百年の年輪をもつ楠の大樹の下で華やかな懇親パーティ。西高辻信貞宮司のきもいりで、代々この天満宮に伝わる門外不出の「飛梅の舞」はじめ豪快な書司太鼓や博多ゴマなどに惜しみなく拍手が送られた。

このようにして夕暮迫る歴史の庭に、若い我らの大合唱とともに意義ある記念行事のすべてが無事に終了したのであった。

「つくし」第1号 p.8 (1973年発行) より引用

一般社団法人つくし青年会議所

第50代理事長 遠藤 尚誉



私共一般社団法人つくし青年会議所は、1972年に旧筑紫郡、現在の筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、那珂川市がそれぞれに市制施行していく中で、筑紫地区の一体性が希薄化していくことを案じた当時の先輩諸兄によって設立されました。「自然と歴史と人間との調和～つくしは一つ～」を設立スローガンに掲げ、青少年の育成、筑紫地区の街づくりに誠心誠意取り組み、本年ここに設立50周年を迎えることが出来ました。

この50年間一般社団法人つくし青年会議所は筑紫地区の発展を目指し様々な事業を行ってまいりました。筑紫地区の子どもたちの将来のため「つくし地区少年野球大会」の開催、それぞれの地域で引き継がれている「つくし地区少年の船」、23年前から開催し全国に広がりを見せた「つくし路100キロ徒步の旅」、悲願であった九州国立博物館の開館後も「九州国立博物館を愛する会」として継承されている「国立博物館誘致運動」、郷土愛と誇りを醸成した「つくし寺子屋」、近年ラグビーに焦点をあてた「つくしスポーツ振興計画」はスポーツを通じた街づくり運動の集大成となりました。

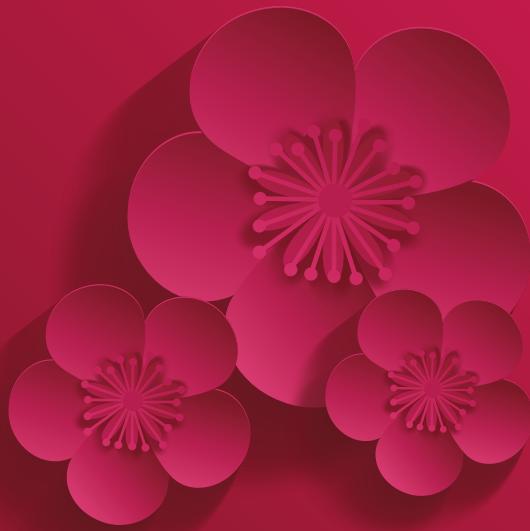
本年、設立50周年を迎えるにあたり、これまで展開してきた事業を踏まえ、「つくしスマイルプロジェクト」として筑紫地区5市の商工会青年部との強力な連携のもと、筑紫地区5市同時の打ち上げ花火を催しました。また、「ART i VERS DAZAIFU 2021」として筑紫地区が持つ魅力にアートという新たな視点を付加し、新しい地域経済のひとつの形をデザインしました。これらの事業は必ずや筑紫地区の発展の一助になるものと確信しています。

半世紀の長きにわたり運動・活動を続けることができたのは偏に地域住民の皆様をはじめ各地会員会議所の皆様、更に先輩諸兄の皆様方のご指導、ご協力の賜物と心より御礼を申し上げます。これからも一般社団法人つくし青年会議所は、「自然と歴史と人間との調和～つくしは一つ～」の設立スローガンのもと筑紫地区の発展のため運動・活動を力強く展開してまいります。多くの諸先輩の皆様、行政や、各種団体の皆様、各地会員会議所の皆様に今後一層のご指導、ご鞭撻を心よりお願い申し上げ、会員を代表し50周年を迎えていただいた感謝のご挨拶とさせていただきます。



つくし J C 設立 50 周年記念

祝辞



ANNIVERSARY

祝辭

筑紫野市長

藤田 陽三



一般社団法人つくし青年会議所が設立 50 周年を迎えられますことに心からお祝いとお慶びを申し上げます。

昭和 47 年の設立以来、「自然と歴史と人間との調和～つくしは一つ～」をスローガンとし、地域活動に取り組んでこられた歴代理事長をはじめとする会員各位の不断のご尽力に対し敬意を表するものでございます。また、会員各位が一丸となってまちづくりや経営を学び、自己研鑽に努められ、 それらの活動の中から得られた成果を地域社会へ還元され、未来への『礎』を築こうとの取り組みに重ねて敬意を表します。

新型コロナウイルス感染症により我々の日常生活の各所に影響が生じる中、地方自治体への行政需要は多様化し、少子・高齢化の進行や大規模自然災害の発生、経済の低迷など様々な課題に直面しています。このような厳しい中にあって、本市におきましてはこれらの課題解決のため、第六次筑紫野市総合計画を中心に据え取り組んでまいりますが、青年会議所会員各位におかれましても、50 周年運動方針の基とされる「住まう全てのひとが豊かな生活を送ることができる地域を作り上げる」という志のもと、メンバーが一丸となって地域のための活動を展開していただくとともに、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げる次第でございます。

筑紫野市では、令和 4 年に市政施行 50 周年という節目の年を迎えます。市といたしましても、将来都市像として掲げる「自然と街との共生都市 ひかり輝くふるさと ちくしの」の実現に向けて、引き続き各種施策を進めてまいりたいと考えております。

結びになりますが、一般社団法人つくし青年会議所設立 50 周年を契機とした益々のご発展と、青年経済人としての会員各位のご活躍とご健勝を心から祈念し、お祝いのことばといたします。



春日市長

井上 澄和



一般社団法人つくし青年会議所の設立50周年、誠におめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

貴会議所は、昭和47年の設立以来、「自然と歴史と人間との調和～つくしは一つ～」をスローガンとして、「九州国立博物館」の誘致や「ラグビーワールドカップ2019公認チームキャンプ地」の誘致・気運醸成など、筑紫地域の発展のために、さまざまな活動に取り組まれ、大きな成果を上げてこられました。また、「つくし路100km徒步の旅」の開催においては、5日間で自分たちの住む地域を100km歩くという体験を通して、子どもたちの自立心や、やり抜く力を育て、「生きる力」を高めるとともに、成長を地域で支える取り組みにも力を尽くされました。

「明るい豊かな社会の実現」のためにとの志は当初から変わることなく、長年にわたり積極的な活動を続け、地域の福祉と文化の向上に、大いに貢献されていることに対し、深く敬意を表しますとともに、厚くお礼申し上げます。

近年、我が国では、少子高齢化の進行、人口減少社会の到来などにより、私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。加えて、頻発し、激甚化する自然災害や、人類を脅かす感染症の流行などにより、人々の価値観や行動も大きく影響を受けています。人々のニーズや地域の課題が多様化・複雑化する中、あらゆる課題に行政だけで対応することは難しくなっており、皆さまをはじめ、NPO、ボランティア団体など、さまざまな主体が互いに協力し、地域全体で支え合うことができる社会の実現が求められています。皆さまの活動は、このような社会を実現するための大きな原動力になるものと期待いたしております。

貴会議所の歩みと同じく、春日市においても、令和4年に市制50周年という記念すべき年を迎えます。これまで、本市は、福岡都市圏の魅力ある住宅都市として発展を続けてまいりました。市民の皆さまと対話を積み重ねながら、地域の力を核とした「協働のまちづくり」を進めており、住み良いまちとして、全国的にも高い評価をいただいております。これもひとえに貴会議所をはじめ、多くの関係者の皆さまのお力添えによるものと感謝いたします。

今後、人口減少社会の本格的到來を見据えながら、さらに住みたい、住み続けたいと思われる魅力あるまちづくりを進めていく所存です。

皆さま方には、これまでの50年間の歴史を礎として、本市をはじめ筑紫地域のさらなる発展のため、引き続き、ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴会議所のますますのご発展、ならびに会員の皆さま方のご活躍とご健勝を祈念し、私のお祝いの言葉といたします。

大野城市長

井本 宗司



一般社団法人つくし青年会議所が設立50周年を迎えられましたことを心からお祝い申しあげます。

1972年に「自然と歴史と人間との調和～つくしは一つ～」をスローガンに設立されて以来、郷土つくしの魅力を活かしたまちづくり、ひとつづくり、ふるさとづくりに貢献してこられました。毎年新規会員の獲得を図りながら、50年もの長きにわたりJ C組織を先導いただいた歴代理事長をはじめ、会員各位のご努力とご苦労に対し、深甚なる敬意を表します。

さて、大野城市も、来年、市制施行から半世紀の節目となります。市政に対し、さまざまな分野で参画いただいている関係者や市民の皆様からご意見やご助言をいただきながら、50歳の誕生祭を一緒にお祝いしようと、すでに準備を進めているところです。

また、来年8月には西日本鉄道路線の高架切替が予定されており、アフターコロナ社会におけるまちの顔、そして人の流れが大きく変化していくことになります。高架下で生まれるさまざまな賑わいと、市内に6件ある日本遺産に認定された歴史遺産などをつなぎ、新たな人の流れを創り出していく仕掛けづくりも着々と計画しています。

こうしたまちの変化とともに、青年産業人の皆さんの地域での活動は、これからますます重要なことになってくることと思います。これまで先人たちが築き上げてこられた50年を礎とし、さらに筑紫地区を発展させるべく、郷土の魅力を活用したまちづくりをともに進めてまいりましょう。

結びに、つくし青年会議所が遠藤尚誉理事長のもと、高い志をもってニューノーマルな社会に新たな一歩を踏み出されることを期待いたします。あわせて会員各位のご健勝とご繁栄を衷心より祈念申しあげ、祝辞といたします。



太宰府市長

楠田 大蔵



ここに晴れて、一般社団法人つくし青年会議所が節目の結成50周年を迎えるにあたり心よりお慶び申し上げますと共に、その歴史を創って来られた全ての関係各位に敬意と感謝の意を表します。

1972年の結成以来「自然と歴史と人間との調和～つくしは一つ～」をスローガンに、九州国立博物館の誘致運動をはじめ、青少年健全育成、国際交流事業等、長きに渡り大きな役割を果たしてこられました。

私自身にとりましても、親子二代にわたり在籍させていただき、28歳から40歳の12年間にわたり、愛する郷土でのかけがえのない第二の青春時代を謳歌させてもらった愛着のある組織です。太宰府市長という在籍当時は思いもしなかった立場でこの50周年記念誌に祝辞を寄せるようになりましたことも、やはりつくし青年会議所での礎があったからこそその運命と改めて感じております。

さて、太宰府市は固より太宰府天満宮を始め名所旧跡、歴史や文化、自然にあふれた魅力あるまちですが、新元号のご縁もいただき、令和発祥の都としても改めて注目を受けております。また、今年は本市の誇る特別史跡大宰府跡や水城跡が大正10年に国の指定を受けてから節目の100年を迎える年にもあたり、各記念イベントや全国史跡整備市町村協議会の太宰府大会も開催いたしました。

こうしたなか、平成27年に太宰府市単独で認定されました日本遺産「西の都」を大太宰府的な観点から捉え直し、つくしは一つを体現すべく筑紫地区5市を含む7自治体に拡大する変更申請を行いました。また、これまで文化財保護の観点から商業利用が制限されていました史跡地の梅などについて、昨年末地方分権改革推進提案を行い、公式に資源として活用できる規制緩和を勝ち取りました。

これを機に、太宰府の梅をさらにブランディングし、スイーツやご当地グルメ等に仕立て上げ新たな地場みやげ産業として振興していく「令和発祥の都太宰府『梅』プロジェクト推進事業」を始動しました。こうした地場みやげ産業の振興や就任三年で10倍増の4億円超を記録したふるさと納税、そして全国上位を記録した住みよさと魅力度を更に高め、世界に冠たる令和発祥の都太宰府を更に発信してまいります。

予期せぬ新型コロナウイルスの世界的蔓延により社会経済は大きな打撃を受けておりますが、会員の皆様方の情熱とたゆまぬ行動力により必ずやこの危機を力強く乗り越えていけると確信しております。結びに、一般社団法人つくし青年会議所の益々のご発展と会員皆様の更なるご健勝ご多幸をお祈りし、皆様と共に愛する郷土の更なる発展に微力を尽くして参ることをお誓い申し上げ、祝辞と致します。

那珂川市長

武末 茂喜



このたびは、一般社団法人つくし青年会議所が設立50周年を迎えたことを心からお祝い申し上げます。

この日を迎えることができましたことは、ひとえに、メンバーの皆さま方の並々ならぬ御尽力の成果とお慶び申し上げます。ひとくちに50年と申しますが、昨今のように社会情勢の変化の激しい世の中で、一つの団体が地域活性化の活動を続けていくことは並大抵のことではございません。幾多の困難があり、そのたびに人知れぬご苦労と工夫があったことと拝察いたします。

皆さま方におかれましては、「自然と歴史と人間との調和～つくしは一つ～」をスローガンに、ここ筑紫地区のため、さまざまな地域活動に取り組んでいただいております。設立以来、「九州国立博物館」誘致活動や、「つくし路100km徒歩の旅」、「つくし寺子屋」、「市民参加型ミュージカル」などのひとつくり事業、平成25年からは「つくしスポーツ振興計画」を掲げラグビーワールドカップ2019のキャンプ誘致を行うなどさまざまな分野にて、地域活性化に寄与していただいております。平成30年10月の本市の市制施行に伴い、筑紫地区全体を、今こそもっと盛り上げたいと「筑紫未来フォーラム2018」を開催していただき、筑紫地区が大きく飛躍していく機会を頂いておりますことに心から感謝申し上げます。

那珂川市は、新幹線で博多駅まで最速8分で行ける交通アクセスの良さと、中心部には商業施設や住宅地などが広がる一方、中山間部には豊かな里山の風景が残っている「ほどよく都会・ほどよく田舎の住環境」を魅力としています。今年の3月に策定した那珂川市総合計画において、新たな将来像を「笑顔で暮らせる自然都市 なかがわ」とし、皆さまが笑顔で安心して暮らせるまちづくりに取り組んでおります。この将来像は、貴会議所のスローガンと重なるものであり、我々の目指し取り組んでいくことは、まさに、貴会議所の活動そのものであると考えております。少子高齢化の進行、人口減少社会の到来、新型コロナウイルス感染症や自然災害の多発化など、さまざまな課題がございますが、貴会議所の皆さまのお力をお借りしながら5年後、10年後、その先の未来のまちづくりに取り組んでまいりたいと思います。

つくし青年会議所の皆さまが、50年もの長きにわたり、つないでこられた「まちづくり・ひとつくり」のバトンを、これから多くの方につないでいただき、筑紫地区の発展に向けて更にご活躍されることを祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。設立50周年誠におめでとうございます。



一般社団法人つくし青年会議所

シニアクラブ名誉会長 西高辻 信良



一般社団法人つくし青年会議所におかれましては、この度設立 50 周年の佳節を迎えられましたこと、シニアクラブを代表し心よりお慶びを申し上げます。

昭和 47 年に「自然と歴史と人間との調和～つくしは一つ～」をスローガンに掲げ、全国 521 番目の青年会議所として設立されてより、半世紀の月日が流れました。この半世紀という時間の中でつくし J C 歴代の多くの若人達が、「つくし」の明るく豊かな社会の実現を目指し、強い意志と熱い情熱をもって歩まれました。その確かな足跡の先に、この 50 周年を迎えることは、大変意義深いものであると同時に大きな意味をもつものと思います。

私が理事長を務めました昭和 61 年は設立 15 周年を迎えた年で、仲間たちと日夜 J C 活動に邁進した日々は今でも鮮明に記憶しております。その中でも、100 年を越える先達の夢を共有し実現に奔走した国立博物館誘致運動は、行政のみならず、市民が一体となって夢の実現に向けて進めるように、市民運動としての様々な事業を企画、運営してきました。その夢は九州国立博物館として平成 17 年に開館し、現在でも多くの来館者を集め、大変喜ばしいことに地域の新しい宝となっています。決して平坦な道のりではありませんでしたが、数々の困難を乗り越えることができましたのも、地域やご賛同いただいた市民の皆様、そして J C のおかげであると深く感謝しております。J C での時間は私にとって第二の青春であり、青年期最後の学び舎でもありました。そして現在、当時の仲間の子供達が在籍、日々活動していることは、大変感慨深く、つくし J C ならではの魅力であろうと思います。

「つくし」は 1300 年を越える悠久の歴史と文化、そして豊かな自然を有する地域であります。その多くが今日も我々の誇りであることは、先人達の熱い想いとたゆまぬ努力の賜物であります。そのバトンを握っている我々は後世に何を残し、作り上げていけるのでしょうか。我々は時代の先端を生きながらも常に過去と未来と繋がっています。時間の経過とともに社会は大きく変化しますが、この土地の力を信じ、魂の継承者として、何が出来るのかを常に考え、行動できる集団であり続けて欲しいと思います。この土地が持ち続けた精神性を現在のコロナ禍においてどう伝えていくのか。現役の皆様には、進取の精神でよりよい地域社会の実現の為に、創始の精神を熱い情熱に変えて、夢を描き、新しい時代の先駆者として、明るい豊かな社会の実現に向けて歩まれ、皆様が未来の若人達の、そして「つくし」の礎となられますことを祈念しております。

結びにこのつくし J C の今後の発展と、ご関係の皆様のますますのご多幸とご健勝を心から祈念申し上げ、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

一般社団法人つくし青年会議所

シニアクラブ会長 井上 孫紹



一般社団法人つくし青年会議所が設立50年を迎えられましたこと、シニアクラブを代表して心よりお慶びを申し上げます。

1972年「自然と歴史と人間との調和～つくしは一つ～」をスローガンに全国521番目の青年会議所として産声を上げて、50年の歳月が流れました。当時、筑紫郡から筑紫野市、春日市、大野市の市制施行にあたり、もともと一つであった筑紫地区の一体性を案じ、これ以上疎遠にならぬよう「つくし」らしい明るい豊かな社会の実現を目指してつくし青年会議所は設立されました。

思い返せば私がつくし青年会議所に入会した日は、設立25周年記念式典の日でありました。当時は長年継続していた青少年育成事業の打ち切りや国立博物館の誘致が決定するなど、長年継続してきたJC運動の転換期でもありました。その後、50周年に向け長期ビジョンを策定し、つくし文化圏の確立、つくし人の育成を目指し様々な事業を展開してきました。そして、2005年100年以上も前に先輩達が思い描き続けてきた夢であり、つくしだけではなくアジアと九州の文化交流の大きな役割を期待され、九州国立博物館が開館しました。当時理事長であった私は、つくし、九州の宝であるこの国立博物館の開館を地域の方と共に喜びを分かち合いたいと考え、開館前の九州国立博物館において、九州交響楽団とつくしの未来を担う中学生を含む市民約600名の合唱団で、九州国立博物館開館記念「第九コンサート つくしが奏でる夢の博物館」を実施し、九州国立博物館の開館を地域内外に大きく発信できたことは大きな経験となりました。

つくし青年会議所のエリアであるつくしの地も、50年の年月を経て国博がある街と変わり、子どもの時につくし青年会議所が実施してきた事業(つくし路100km徒步の旅、市民参加型ミュージカル、つくし寺子屋等)に参加した経験のある「つくし人」が存在する街と変わってきました。

50年の節目を迎え、設立100周年につくしのオピニオンリーダーとして存在するためにも、現役諸君が今一度、設立時の先輩諸兄の想いを共有し、今後も地域に運動を展開して頂くことを期待しております。

最後になりますが、50年途切れること無くご支援を頂きました、地元筑紫地区の関係の皆様、JC関係者の皆様、そしてつくし青年会議所関係者ご家族の皆様に心より感謝を申し上げ、今後ともつくし青年会議所が「つくしJCの櫻」を途切れること無く、未来へ繋いでいけるよう、ご支援を頂きますようお願い申し上げ、お祝いの挨拶とさせて頂きます。



公益社団法人日本青年会議所

第70代会頭 野並 晃



一般社団法人つくし青年会議所の皆様、日頃より公益社団法人日本青年会議所に対し、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。また、50年という長きに渡り、青年会議所活動を通して、貴地域に多くの価値を創出して来られた事に対しまして、心より敬意を表します。

昨年から続く新型コロナウィルスの猛威により、日頃の青年会議所活動の見直しを余儀なくされる中、ニューノーマルな時代の幕開けとなり、質的価値の向上、SDGsの18番目のゴール、デジタル化、国際社会との関わりかた他、私たちが向き合うべき社会課題は山積しております。しかしながら、創設より青年経済人の想いを紡いできた一般社団法人つくし青年会議所の皆様におかれましては、50周年という記念すべき年である本年度、遠藤尚誉理事長の掲げるスローガン「挑戦～志高く、大きな夢を抱き、新たな道を創ろう～」のもと、即座に「やる」という意思決定を選び、地域、次世代へ向けた人材育成、組織づくり、会員拡大、情報発信、青少年事業、50周年事業などを展開していかれる事と伺っております。

多くの困難があるかと思いますが、強い友情とチームワークを基盤とし、皆様一人ひとりの成長を通して地域が活性化していく未来にご期待申し上げます。

本会としては、「輝く個が切り拓く 真に持続可能な国 日本の創造」を掲げ、あらゆるカウンターパートと共に鳴し、新たな価値を共創し、共感の輪を描く運動を展開してまいります。引き続き本会に対し、深いご理解、ご支援を賜るとともに、大いにご活用頂ければ幸いです。

結びに、貴青年会議所のさらなるご発展、並びに地域において素晴らしい成果を出されること、先輩諸氏、現役会員の皆様のご健勝、ご多幸を心よりご祈念申し上げます。

Idea & Action 光を放つ起点となろう！

公益社団法人日本青年会議所
九州地区協議会

2021年度会長 柴崎 政俊



遠藤尚誉理事長をはじめとされます一般社団法人つくし青年会議所創立50周年誠におめでとうございます。

九州地区内会員会議所を代表し、心よりお慶び申し上げます。そして長年にわたりJC運動を紡いでこられた先輩諸兄姉とその運動を支えてこられた行政・関係諸団体・地域の方々すべてに深く敬意と感謝を申し上げます。

さて、昨年からの新型コロナウイルス感染症の影響により、世界は大きな変革の時期を迎えました。未曾有のパンデミックにより、それまでの常識は通用しなくなり、社会は分断され、自粛生活により経済は疲弊しています。私たち青年会議所もその存在意義を根源から問われることとなったのではないかでしょうか。日本青年会議所は2020年より組織改革を掲げ、自らを時代に即したものへとその姿を能動的に変化させて参りました。協議会という組織の在り方に関しても、地区協議会、ブロック協議会それぞれ在り方について議論し、その役割の棲み分けを定義した2020年代協議会モデルを採択いたしました。そのなかで明記されたのは、協議会というものはあくまでも各地会員会議所のためにあるという原点です。青年会議所は青年に成長と発展の機会を与える、成長した青年が地域に好循環を生み出す運動を起こせるようにする組織であるという点は、今後も変わりありません。九州各地でのJC運動を最大化させるため、私たち九州地区協議会はブロック協議会と連携し、これからもLOM支援を継続して行ってまいります。引き続き九州地区協議会へのご理解そしてご支援を賜ればと存じます。

結びになりますが、スローガン「挑戦」～志高く、大きな夢を描き、新たな道を創ろうにありますとおり、遠藤理事長の描かれる大きな夢が新たな道を創ること、そして一般社団法人つくし青年会議所の皆様の益々のご繁栄とご多幸を心より祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



公益社団法人日本青年会議所
九州地区福岡ブロック協議会

2021年度会長　平島　周



一般社団法人つくし青年会議所設立50周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。また、1972年の設立から今日に至るまでの50年間という長きにわたり、熱い情熱をもって地域社会の発展にご尽力されました諸先輩方の功績に心からの敬意を表すると共に、諸先輩方の誇り高き志を受け継ぎ日々JC運動に邁進されている現役メンバーの皆様に心よりお祝いと感謝を申し上げます。

設立50周年という節目の年に、遠藤尚誉理事長の「挑戦」～志高く、大きな夢を描き、新たな道を創ろう～というスローガンのもと、大きな目標を掲げメンバー一丸となって力強くJC運動を展開されていることと確信しております。また、未だ終息の見えないコロナ禍の中で、様々な局面で難しい判断を迫られていることと思いますが、新たな手法を取り入れ様々な工夫を凝らしJC運動を途絶えさせることなく発信し続けているメンバーの皆様の惜しみない努力に敬意を表し、感謝申し上げます。この度の創立50周年という節目の年を迎えられましたことは、これまで長きにわたり守るべきものは守り、変えるべきものは変え、高い志と情熱のもと勇気をもって時代に即した運動を展開して来られた証しだと考えます。急速に変わりゆく時代の中で、引き続き諸先輩方から受け継がれてきた熱い情熱のもと運動を止めることなく展開していただき、また時代に即し変えるべきものは変えていくことで地域に効果的な運動をこれからも発信し続けていただきたいと思います。

本年度、福岡ブロック協議会は、「レジリエンスに溢れた地域が高め合う持続可能な福岡の実現」というスローガンのもと、あらゆるカウンターパートと手を取り合い、その時代に即したニューノーマルな運動を展開することで、未曾有の新型コロナウィルスという災害からの復興の道標を示してまいりたいと考えております。引き続き各地青年会議所の皆様と連携を深め、共に地域の発展に寄与する運動を展開してまいります。

設立50周年を迎えた一般社団法人つくし青年会議所の皆様が、遠藤理事長のリーダーシップのもと、英知と勇気と情熱をもって展開される運動が地域により良い変化を与え、地域に誇りと希望を与える契機となることを確信し、明るい豊かな社会の実現に向けて益々ご活躍されることを祈念申し上げ、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

スポンサー青年会議所
一般社団法人福岡青年会議所

2021年度理事長　彌登　義明



この度は、一般社団法人つくし青年会議所創立50周年誠におめでとうございます。

スポンサーJ Cとして、同じ第3エリアとして、そして何より志を同じくする同士として心よりお祝いを申し上げます。

昨年から続くパンデミックにより、我々の生活は大きく変わりました。集うことによって力を生み出してきた青年会議所の在り方も、変わらざるを得ない状況にもなりました。しかしながら我々が忘れてはならないことは、如何なる時代においても、歴史を作ってきたのは我々と同じ青年といわれる世代であったということではないでしょうか。

筑紫地区の発展のために、地域の未来のために、熱い情熱を持って、汗をかき続け運動を展開されてこられた先輩諸兄、諸姉の皆様のおかげで今があると存じます。

また、その情熱は冷めることなく、常に時流を把握し時代の開拓者として活動を行っている現役の皆様には、いつも刺激と学びを頂いております。

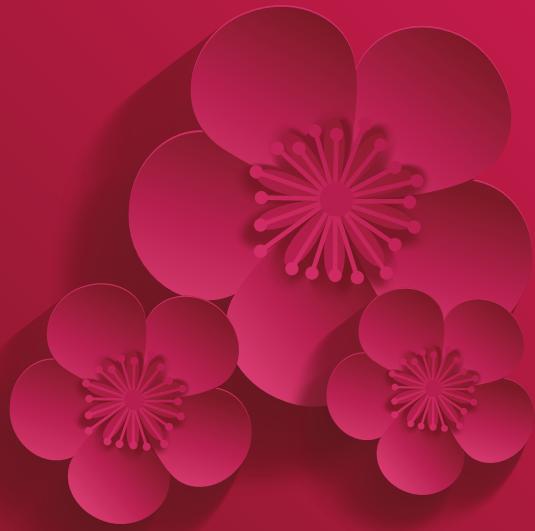
そして本年は遠藤理事長のもと、困難な時代の中、若者が若者らしく失敗を恐れず果敢に挑戦するという強い気持ちが伝わってきます。この想いがメンバー一人ひとりの想いとして折り重なっていくことで、素晴らしい未来が切り拓かれると私は確信しております。

結びになりますが、一般社団法人つくし青年会議所の益々のご発展と、全ての方々のご健勝を願うとともに、つくし青年会議所と福岡青年会議所のこの良き関係が末永く続きますことを祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。



つくし J C 設立 50 周年記念

50 年の歩み



1972～1978年

1972

初代理事長

大神 二郎

「設立そして創立総会への
生みの苦しみ」

1973

第2代理事長

加藤 達夫

「自然と歴史と人間との調和」



1974

第3代理事長

山村 徳二

「ひろくJCの基本理念を学ぼう」



1975

第4代理事長

森 定雄

「5年目を目指し
仲間づくりに努めよう!!」

1976

第5代理事長

柳澤 義男

「5周年記念事業を成功させよう！」



1977

第6代理事長

福山 漢治

「10周年へ向けて新たな出発」



1978

第7代理事長

黒川 一正

「創立以来の歴史と伝統を踏まえて」



世の中の主な出来事

札幌冬季オリンピック開催、
札幌市・川崎市・福岡市が
政令指定都市に指定

つくしJCの主な事業

「自然と歴史と人間との調和
～つくしは一つ～」をスローガンとして設立総会を開催する石油ショックによる物価急
上昇、ノストラダムスの大
予言が出版される第1回JCデー統一行事
「みどりを歩いてつくしの歴史を語ろう」アクセントオンラインニュース優秀賞を授賞戦後初のマイナス成長、佐
藤栄作がノーベル平和賞を
受賞第二次ベビーブーム、山陽
新幹線博多まで開通

第1回つくし走ろう会発足

第3回JCデー統一行事
「夏休みおわかれフェスティバル」の開催、事務局の移転モントリオール五輪開催、
ロッキード事件、昭和天皇
在位50年式典5周年記念式典の開催、福
岡ブロックLD道場主管王貞治が国民栄誉賞
第一号受賞、平均
寿命世界一になる、
白黒テレビ放送が廃止第1回筑紫地区少年野球大
会、つくし献血会発足新東京国際空港（現成田国
際空港）開港、日中平和友
好条約調印、福岡大渴水、
宮城県沖地震第6回JCデー統一行事
「交通問題を考える」の開催

1979

第8代理理事長

田島 秀幸

「筑紫地区へ たゆみない愛情を！」



1980

第9代理理事長

上野 嵩良

「10周年への助走」



1981

第10代理理事長

長井 士郎

「燃ゆる思いをJCに」



1982

第11代理理事長

牧山 恭久

「青少年への取組み・事業に
継続性を・社団法人格取等」

1983

第12代理理事長

永田 義信

「地域に根ざしたJC運動の
展開・運動の見直し」

1984

第13代理理事長

勝田 一成

「志は大空を駆けても
足はしかと大地にあれ」

1985

第14代理理事長

武藤 一治

「人間開発・15周年への
助走・同志の拡大」

世の中の主な出来事

第二次石油ショック、インベーダーゲーム大流行、日本初の電子体温計発売



つくしJCの主な事業

明日の福岡を考える青年経済人会議 K I 法研究会の開催



日本の自動車生産台数が世界第一位、第一回の全国規模のホワイトデー開催、ジョン・レノン銃殺事件



スペースシャトルコロニ比亚が打ち上げ成功、台風15号関東直撃、秋田空港が開港



「JC少年の船」事業の実施、創立10周年記念式典の開催



東北新幹線、上越新幹線開業、プロレスブーム、日本航空350便墜落事故



社団法人設立総会・社団法人化記念式典の開催

東京ディズニーランド開園、中国自動車道が全線開通、任天堂が「ファミリーコンピュータ」を発売



第12回福岡ブロック会員大会主管、大宰府青少年育成市民会議

ロサンゼルス五輪開催、日本初の衛星放送始まる、グリコ・森永事件

「親と子と先生の体験道場」の開催、つくし風土記リレー式継続事業として再スタート

日本航空123便墜落事故、初の日本人宇宙飛行士誕生、国際科学技術博覧会「科学万博つくば85」の開催

LOMから初の福岡ブロック協議会会長の輩出

1986～1992年

1986

第15代理理事長

西高辻 信良

「今 鮮れつくし人」

～15周年を皆の力で・人のネットワークを拡大～



世の中の主な出来事

チエルノブイリ原子力発電所事故、シートベルトの着用が原則義務化、ハレー彗星が76年ぶりの地球接近

つくしJCの主な事業

「つくし風土記」発刊、社会科ビデオ教材「わたしたちの街」の制作、創立15周年記念式典の開催

1987

第16代理理事長

杉原 弘幸

「九州アジア国立博物館運動の
継続・内部充実」



国鉄が分割・民営化されJRグループ7社が発足、東北自動車道が全線開通、俳優・石原裕次郎が死去

九州アジア国立博物館シンポジウムの開催、ベストオブザベスト賞を受賞

1988

第17代理理事長

田代 慶隆

「人生には、何も 無駄はない」

～素晴らしい人生・素晴らしいJC～



世界最長の青函トンネル開通、リクルート事件



「国博を誘致する会」設立総会、「国博を誘致する会」設立記念大会

1989

第18代理理事長

前田 和美

「ローカルがグローバルにフィットする」

～20周年に向けて、魅力ある街づくり～



昭和天皇崩御、昭和から平成に、消費税施行



全国会員大会副主管、2人目の福岡ブロック協議会会長の輩出

1990

第19代理理事長

村山 博俊

「国博ある街づくり・20周年を前に
して、目的意識を持ったJC運動」



バブル経済崩壊で株が暴落、
第一回大学入試センター試験実施

LOMから初の九州地区協議会会長の輩出、アジアとのふれあい講座の開催

1991

第20代理理事長

前田 健吾

「ちょっと素敵な地域づくりの物語を」



雲仙普賢岳で大火碎流発生、
大相撲ブーム、新東京都庁開庁



ワシントンD.C.及びスミソニアン博物館群視察団派遣事業の実施、筑紫地区1万人アンケート実施、創立20周年記念式典の開催

1992

第21代理理事長

井筒 康人

「地球の中で世界を見つめて
—地域住民から地球市民へ—」



長崎県でハウステンボス開業、国家公務員の週休二日制スタート、天皇、初の中国訪問



九州国立博物館誘致運動の実施

1993

第22代理理事長

別府 壽信

「和敬静寂」

～魅力なるJCづくり 個性ある人づくり
素敵なつくしづくり つくし夢づくり～

世の中の主な出来事

福岡ドームが完成、サッカーリーグ開幕、レインボーブリッジ開通



つくしJCの主な事業

ソロモン視察団

1994

第23代理理事長

川添 廣志

「つくし文化圏の創造」



関西国際空港が開港、大江健三郎氏がノーベル文学賞受賞、オウム真理教によって松本サリン事件発生



1995

第24代理理事長

河内 孝文

「Back to the basics」

～振り返ろう活動の原点 築こう地域の未来～



阪神・淡路大震災、Windows 95発売、地下鉄サリン事件



福岡ブロック会員大会主管

1996

第25代理理事長

永田 裕明

「2001年を目指し“今”

新たなる一歩」



アトランタ五輪開催、複合商業施設キャナルシティ博多オープン

第2回スミソニアン博物館視察団派遣事業

1997

第26代理理事長

藤井 俊雄

「変えてしまえ！人・まち・JC

描け夢（みらい）の青写真」



消費税率を5%に引き上げ、山一証券破綻、東京湾アクアライン開通

日本青年会議所準グランプリ受賞

1998

第27代理理事長

奥膳 繁喜

「見つめ直そう！心・地域」



冬季長野五輪開催、サッカーワ杯仏大会に日本が初出場、郵便番号7桁化

第1回つくし路100km徒步の旅の開催

1999

第28代理理事長

梶原 日出男

「21世紀型 人・モノ・地域の創造」

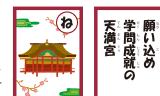
～'99 本物の発掘～



ダイエーが26年ぶりバスリーグ優勝、地域振興券を政府が子ども老人に支給



「地域主権フォーラム in 九州」の開催、「つくしが唄うベートーヴェン」の開催、「第2回つくし路100km徒步の旅」の開催



2000～2006年

2000

第29代理事長

滝 利和

「一路順風」



世の中の主な出来事

シドニー五輪開催、BSデジタル放送開始、新紙幣2千円札発行、新五百円硬貨発行



つくしJCの主な事業

小学生用教材「ぼくたち、わたしたちの町つくし」の作成

2001

第30代理事長

青山 博秋

「元気・熱気・本気」



ユニバーサルスタジオジャパン開園、アメリカ同時多発テロ事件、家電リサイクル法施行



つくし路100km徒步の旅 特別企画「青少年国博体感の旅～つくし文化圏のルーツを探る～」の開催

2002

第31代理事長

江藤 英次

「つくしは一つ

今一丸となって更なる光を」

～いかなる時にもゆめゆめ退く心なから～



日韓共催のサッカーW杯の開催、小柴昌俊がノーベル物理学賞受賞



第5回つくし路100km徒步の旅 移管

2003

第32代理事長

西小路 裕一

「Challenge to the next stage (新次元への挑戦)」

～一人ひとりの輝きが未来を創る～



郵政事業庁が日本郵政公社に、小惑星探査機はやぶさ打ち上げ、鳥インフルエンザ感染発生

ゆかいに学びん舎 in つくしの開催、地域創造推進フォーラムの開催

2004

第33代理事長

磯村 亨

「人事を尽くして天命を待つ」

～神は努力する人間を助ける～



アテネ五輪開催、日本で新紙幣発行



JCI世界会議福岡大会副主管

2005

第34代理事長

井上 孫紹

「繋ぐ」

～過去・現在（地域）・そして未来へ～



福岡県西方沖地震が発生、愛知県で「愛・地球博」が開幕、JR福知山線脱線事故

九州国立博物館開館記念第九コンサート「つくしが奏でる夢の博物館」の開催、「筑紫（つくし）ルネッサンス序章」の開催

2006

第35代理事長

神代 憲暁

「心意気」

～つくしの再生・次世代への継承～



携帯電話の番号ポータビリティ制度開始、日本の65歳以上の人口率が世界最高、神戸空港が開港



九州地区大会2006 in つくしの主管、設立35周年大同窓会の開催



2007

第36代理理事長

竹井 正彦

「証」

～それぞれの場面に生きた証を刻もう～



2008

第37代理理事長

寺崎 盛行

「夢」

～白いキャンバス（地域）に大きな夢を描き、
夢に向かい行動、そして夢の実現へ～

2009

第38代理理事長

永田 厳悟

「記憶」

～勇気と氣概を持って踏み出そう、
その一歩が心の記憶に残る～

2010

第39代理理事長

麻生 誉誌朗

「克己力」

～未来を劇的に変えるのは、
自分自身の行動である～

2011

第40代理理事長

堺 博紀

「礎」

～先人の礎に感謝し、未来への礎を築こう～



世の中の主な出来事

新潟県中越沖地震が発生、
第1回東京マラソン開催

つくしJCの主な事業

九州国立博物館をメインステージとした国際交流事業
「九博から始まるこころの交流」の開催

北京五輪の開催、東京メトロ・副都心線開業、リーマンショックによる世界的金融危機

ひとづくり事業「つくし寺子屋歴史塾」の開催

つくし寺子屋
歴史塾

民主党に政権交代、鹿児島県の桜島が爆発的噴火、新型インフルエンザが全世界で大流行、裁判員裁判始まる

市民参加型ミュージカル「ハロー！天使です」の開催、グリーンフィールドプロジェクト in つくしの開催

尖閣沖で中国漁船衝突、小惑星探査機はやぶさが7年ぶり帰還、日本航空が経営破綻

市民参加型ミュージカル「つくし路の向こうへ～過去・現在・未来～」の開催、まちづくり事業「つくし御当地検定～地域の魅力再発見～」の開催

東日本大震災発生、地上デジタル放送に完全移行、歴史的円高、なでしこジャパンW杯優勝

設立40周年記念事業「つくし寺子屋～歴史あるつくしから学ぼう！ぼくらの明るい未来のために～」の開催、東日本大震災復興支援事業、市民参加型ミュージカル「つくしの空は晴れて」の開催





第41代理事長 松大路 信潔

太宰府天満宮

スローガン

「道」

～こころは一つ 輝かしい未来へ共に歩もう～

ご挨拶

一般社団法人つくし青年会議所設立50周年の佳節を迎えられました事、誠におめでとうございます。衷心よりお祝い申し上げます。

2011年3月11日に発災した「千年に一度」とまで言われる未曾有の大災害をもたらした東日本大震災。2012年は我が国において復興元年とも言える一年でありました。更には7月に九州北部豪雨災害が発生し、自然の驚異に畏怖する年でした。この年、先ずは自分たちの地域で自分たちに出来ることを一所懸命にやり抜くことで「被災地にそして全国に元気を送りたい」という想いで一年間様々な運動や活動に取り組みました。

その中でも設立40周年運動方針である「きょういく（教育・共育・郷育）」を基に大きく二つの事業を展開致しました。一つ目は2009年から立ち上げたミュージカル公演事業で太宰府市制30周年記念公演と銘打ち、郷土の歴史と想いを盛り込んだオリジナルミュージカルとして開催しました。小学3年生から大人までJCメンバーを含む総勢70名の出演者が4ヶ月間、40回もの稽古を行い、こころを一つに同じ時間と空間を共有し一つの素晴らしい舞台を作り上げました。このミュージカル事業は2013年に「つくしドリームミュージカル運営委員会」に事業移管し、現在も地域に求められる事業として活動を継続しています。二つ目は設立40周年記念事業「つくし寺子屋」の第2回目の開催です。小学生高学年を対象として「友情」「礼節」「郷土愛」「考える力・伝える力」「感謝」をテーマに計5回の講座を行いました。その中で子供達だけではなく保護者を対象にした教育に関する講演や日本JCのプログラムである「家訓づくりプログラム」などのセミナーを取り入れ家庭教育の充実こそが教育の淵源であることを実感して頂きました。

発行物としては新たに2つ作成しました。一つ目は、つくしJCの活動エリアである筑紫地区の課題と特徴を踏まえた「未来のつくし構想」を冊子化しHPにも掲載しました。二つ目は、素晴らしい自然や悠久の歴史と文化遺産に恵まれたつくし地区を老若男女が楽しみながら学べる「つくし郷土かるた」の作成です。現在でも「つくし郷土かるた」大会が開催されるなど大いに活用されています。

つくし青年会議所は設立スローガンを基に人が幸せに生きることのできる「明るく豊かな社会の実現」を構築するために設立以来、先輩諸兄が崇高なる志と熱い情熱をもって様々な運動や活動を展開してきました。社会の移ろいの速度が早く、あらゆる情報の真偽が定かではない現代、如何に豊かな社会と人生の幸せを見出すか50年100年先の未来に想いを馳せ、地域から必要とされる団体として積極的变化を常に探求し、この50周年を契機に更に志高く新たな道を歩むべく挑戦を続けられることを期待しています。



7月度例会事業「かるた大会」



太宰府市制30周年記念公演 市民参加型ミュージカル「まほろば」

主な事業

- 1月 初老の祝い
- 2月 2月度例会&異業種交流会
- 4月 ファミリー懇親例会事業 講師:古賀 未廣 氏
- 5月 5月度講師例会 講師:梶原 日出男 先輩
- 6月 6月度講師公開例会 講師:落語家 立川 生志 師匠
- 7月 第2回つくし寺子屋（～11月）
- 9月 9月度例会事業
「描こう夢のつくし、そして繋げよう未来へ」
太宰府市制30周年記念公演
- 10月 10月度講師公開例会 講師:重岡 雅泰 氏



木
本
記
念
館
の
時
代
より
伝
わ
る

2021一般社団法人つくし青年会議所
設立50周年記念誌



第42代理事長 堀 悠祐

有限会社時計宝石メガネ補聴器ヒラヤマ

スローガン

「継承」

～想いを継承し学び続けよう、未来を創るために～

ご挨拶

一般社団法人つくし青年会議所設立50周年、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

私が入会したのは九州地区大会を主管した設立35周年の年でしたので、あれから15年の月日が流れたことを思うと、時の流れの速さに驚くと共に非常に感慨深いものを感じます。

2013年に理事長を務めさせていただいた年を振り返ってみると「継承」～想いを継承し学びつづけよう、未来をつくるために～をスローガンに掲げ、設立40周年の時に発表した運動方針「きょういく（教育・共育・郷育）を基にした人財の育成」を基盤として大きく二つの事業を開催いたしました。一つ目は4回目となる寺子屋事業で、1泊2日の合宿を2回行い合計4回の講座を開催しました。その講座の中で地引網体験や飯盒炊さんなど普段の生活において、あまり体験することのない事を体験していただき、その学んだ事をまとめ、自分たちで発表する事で「自立と共助の心」や「郷土を愛する心」の醸成を図りました。二つ目の事業として、2019年に日本で開催されたラグビーワールドカップを見据え、「つくしスポーツ振興計画～ラグビーフェスティバル～」と題し、筑紫地区において盛んに活動が行われ、全国的にも活躍しているチームが多数存在しているラグビーに着目し、ラグビーをまちの魅力の一つとして発信しながら、新たなコミュニティーの創出や、まちづくりのきっかけづくりとして、地域内の小学生ラグビーチームや高校生チームをはじめ、今までラグビーに触れたことのない初心者の子供まで、総勢300名を超える方々に参加していただきました。

2011年と2012年にこれまで理事としてLOMの中枢を担っていた多くの先輩が卒業され、つくし青年会議所の未来を担うメンバーの育成と会員拡大に力を入れた年でもありました。また、様々な趣味の会を通してメンバー同士の交流と相互理解により、LOMの活性化に繋がることができました。このように2013年を無事に終えられたのは、当時共に活動したメンバーをはじめ、多くの先輩方や関係者の皆様のおかげだと、改めてこの場を借りて感謝申し上げます。最後になりますが、2020年から続く新型コロナウイルス感染症のため、様々な事業が規模の縮小や中止となるなか、青年会議所だからこそ出来ることを模索し様々なことに挑戦して、多くの仲間と協力しながら今後のJC活動・運動に邁進していただき、筑紫地区の発展に寄与されることを祈念申し上げます。



第3回つくし寺子屋



つくしスポーツ振興計画「ラグビーフェスティバル」

主な事業

- 1月 初老の祝い
- 2月 新入会者セミナー
- 2月度講師例会
講師:2010年度日本JC専務理事 上田 博和 先輩
- 4月 ファミリー懇親例会
- 5月 5月度講師例会 講師:木村 貴志 氏
第3エリア野球大会
- 6月 6月度講師公開例会 講師:古賀 稔彦 氏
- 7月 第3回つくし寺子屋 (～9月)
7月度講師例会 講師:森 重隆 氏
- 9月 つくしスポーツ振興計画
「ラグビーフェスティバル」in 春日公園球技場



第43代理事長 西高辻 信宏

太宰府天満宮

スローガン

「一途一心」

～志高く可能性を追求し、未来を切り拓こう～

ご挨拶

一般社団法人つくし青年会議所設立50周年、誠におめでとうございます。つくしの地において、一年一年の運動の積み重ねが50年という時を刻み、佳節を迎えること謹んでお慶び申し上げます。

また、40周年から50周年にかけては、私がつくし青年会議所の一員として活動させて頂いた時期とほぼ重なります。理事長在任時はもとより、長年に亘り公益社団法人日本青年会議所等に出向させて頂いた中で、多くの先輩方やメンバーの皆様にお支え頂きました。つくし青年会議所の有り難さと素晴らしい実感した日々であり、心から感謝申し上げる次第です。

私が理事長を務めました2014年は、つくしの地域を「文化の発信地」にするというテーマを掲げ、運動・活動を行いました。青年会議所は、本当に素晴らしいことを行っているが、なかなか市民の皆様に伝わっていない。入会以来抱いていた問題点を少しでも改善したいと思案する中で、この地域に今後も受け継がれていく未来への大きな方向性を言語化して打ち出すことが必要だと考えました。特に、この年は「一般社団法人つくし青年会議所」として新たなスタートを切るという大きな変化を伴った年であり、これまでの社団法人としての歩みを踏まえた上で、もう一度我々自身が進むべき道を決めていく転換点でもありました。地域やつくし青年会議所の過去・現在・未来を考えた時に、その方向性として思い至ったことが、「文化」という切り口であり、「文化の発信地」であり続けることを思い描いて事業を展開してまいりました。

卒業して今改めて、青年会議所の役割は「未来の種を蒔く」ことだと確信しています。社会や地域、関わる多くの人たちの可能性を信じ、より良い未来の為に種を蒔いていく。芽を出す種もあれば、ずっと芽を出さない種もあるかもしれません。それでも、種を蒔いていかなければなりません。在籍中に芽が出なくても、長い時間をかけて花開くこともあります。そして入会理由は様々かもしれません、本気で青年会議所に向き合ったのであれば、必ずメンバー一人一人の心には「公の為、他の為」という想いの種が蒔かれ、芽生えているはずです。40歳で卒業を迎えますが、その芽に水を注ぎ続け、一生を懸けてでも大木へと育てて欲しいと願っています。

結びに、つくし青年会議所の発展と会員の成長が、社会と地域のより良い未来に繋がるという決意のもと、困難な状況下だからこそ挑戦を続け、未来を切り拓かれていかれますことを祈念申し上げます。

主な事業

- | | |
|-----|--|
| 2月 | 初老の祝い |
| 3月 | 3月度例会&異業種交流会 |
| 4月 | つくしスポーツ振興計画
「ラグビーフェスティバル2014」 |
| 4月 | 4月度講師公開例会 講師:合谷 正一郎 氏 |
| 5月 | つくしフォーラム in 九州国立博物館
講師:(第一部)片山 正通 氏 (第二部)中川 淳 氏 |
| 6月 | 第4回つくし寺子屋 (~8月) |
| 7月 | 7月度講師公開例会 講師:竹田 陽一 氏 |
| 9月 | 新人アカデミー研修
9月度講師例会 講師:伊達 亮 氏 |
| 10月 | ファミリー懇親例会 |



つくしスポーツ振興計画「ラグビーフェスティバル2014」



つくしフォーラム in 九州国立博物館



50周年
記念



第44代理事長 納富徹

クリーンアップファクトリー株式会社

スローガン

「決断」

～成長し続ける地域の花となれ～

ご挨拶

設立50周年を迎える、尚も郷土の未来へ『挑戦』し続けられている、現役メンバーの皆様へお祝い申し上げます。

2015年、私が理事長を務めさせて頂いた当時は4年後に開催される予定の「ラグビーワールドカップ」に向けて、筑紫地区の可能性を信じて誘致を始めた頃でした。その後、順調に活動を重ねられ、地域と魅力ある国際スポーツ大会を満喫した2019年を迎えたと聞き、安堵していました。同じように、その時は結果が見えなくても、意味や立ち位置を探し続ける一貫した継続活動は、年度を重ねる毎にJC活動も洗練されてストーリーが生まれます。結果、地域の皆様にも共感を呼び、想像を超える人を動かす実体験は、私も現役時代に学ばせていただいた貴重な機会でした。

今年、50年の歴史を紐解き、過去を知ることは大切ですが、今、世界は経験したことのないウイルスの感染症に脅かされています。そのため、長年に亘って習慣化されてきた仕事や生活、JC活動のスタイルにも変化が求められています。

また、戦後76年足らずで、人類は美しい自然環境を汚してしまった、その代償は次世代にまで残してしまう程で、自然の改修能力だけでは時間が掛かり、多大なエネルギーがさらに必要です。しかし、その裏では全く新しい技術が生まれ、世界を変えるイノベーションも沢山起きています。そのスピードはAI技術でさらに加速すると容易に予想できます。「今」を生きる皆さんには、インターネットやスマートフォン、SNSを駆使して、新しい情報を世界中から集め、知恵を出し合い、変化が激しい時代でも持続可能で心温まる青年会議所運動を切り開いて、筑紫地区から日本をリードして欲しいと願っています。

つくし青年会議所が100周年を迎えるのは2071年。私が生きていれば96歳です。その頃には医療も発達して、恐らく私もまだ健康に生きている時代だと思います。私は、その時代を生きる青年会議所運動も見てみたいと、おこがましくも期待して夢見る一人です。是非、また今日から50年持続可能な、新たな「まちづくり」をテーマに、仲間づくりに励んで下さい。本年は誠におめでとうございます。



第5回 つくし寺子屋



つくしフォーラム2015

主な事業

- 1月 初老の祝い
- 3月 3月度講師例会 講師:藤木智氏
- 4月 つくしスポーツ振興計画 in 春日公園球技場
「ラグビーフェスティバル2015」
- 5月 5月度例会事業「ブレインストーミング」
- 6月 6月度例会事業「ボディーランゲージ」
- 7月 7月度例会事業 経営セミナー
- 8月 第5回つくし寺子屋
- 10月 10月度例会事業「JAPAN PRIDE」
- 11月 つくしフォーラム2015
講師:(第一部)東国原英夫氏 (第二部)向井昭吾氏
- 12月 アカデミー研修



第45代理事長 小鳥居 寛貢

太宰府天満宮

スローガン

「信頼」

～明るい未来へと前進する為に真摯であれ～

ご挨拶

この度は設立50周年という大きな節目の年を迎えられました事、心よりお祝い申し上げます。

私が理事長を務めました2016年度は、設立45周年の節目を迎えた事もあり、様々な青年会議所運動や事業、活動を展開させていただきました。そんな中、対外に向けての運動や事業としては、「ラグビーを通じたまちづくり運動」、「新たな文化となり得る魅力発信事業」、「青少年育成事業」の3つを実施いたしました。「ラグビーを通じたまちづくり運動」では、2019年にラグビーワールドカップ日本大会の開催が決まっていた事もあり、多くの方に対してラグビーに触れていただくと共に、筑紫地区はラグビーが盛んなまちという認識を持ってもらう事業として、ラグビー日本代表を筑紫地区から応援する「パブリックビューイング」を開催いたしました。また、運動の一環として一般社団法人福岡青年会議所と共にオールブラックスを始めとする強豪チームをキャンプ地として誘致する運動も2017年までかけて進めさせていただきました。さらに「新たな文化となり得る魅力発信事業」と「青少年育成事業」に関しては、設立45周年記念事業として2つの事業を抱き合わせて開催させていただきました。筑紫地区的魅力の場所である天拝山歴史自然公園・武藏寺・二日市温泉にて、筑紫地区が有する悠久の歴史と、豊かな自然を多くの人に魅力として認識していただくため、「音楽」と「食」をテーマとした事業『つくしカルチャーフェスティバル～音楽と食の祭典～』を開催すると共に、青少年育成事業として、主に筑紫地区的大学・短期大学に通う学生に運営スタッフとして関わりを持っていただきながら、郷土愛を育む事業を行いました。そして、対内の活動としては会員拡大に力を入れ、83名からスタートした正会員数に対して、41名という大人数の会員の拡大に成功し、合計124名の組織に成長させる事ができました。

最後に、周年を迎える意義とは、組織として自らが行ってきた行動を認識し、これから先に進むべき道を確認・共有する事であると思います。さらに付け加えると、それを対外的に発表する、今後どうするという決意を対外に約束するという事であると考えています。一般社団法人つくし青年会議所が50年という長い歩みを終え、さらに今後も歩き続けるための強い決意をもって運動や活動を展開し、今後益々飛躍することを心よりご祈念申し上げ、50周年のお祝いの言葉にかえさせていただきます。



パブリックビューイング in 筑紫野市文化会館



つくしカルチャーフェスティバル～音楽と食の祭典～

主な事業

- 1月 新春の集い
初老の祝い
- 5月 5月度講師例会
- 6月 ラグビー日本代表戦パブリックビューイング
- 7月 7月度講師例会 講師:樋渡 啓佑氏
- 9月 新入会者セミナー
5つの心を育む教育の実践運動
設立45周年記念事業
つくしカルチャーフェスティバル～音楽と食の祭典～
モニュメント作成
- 10月 ファミリースポーツ観戦例会
新人アカデミー研修



お
祝
賀
し
ま
る
水
を
第
50
回
記
念
式
典

2017年



TCF(つくしカルチャーフェスティバル) 開催

つくしJCでは2014年より、この地域が目指すべき方向性を「文化の発信地」と位置づけて運動を展開し、2016年度では設立45周年記念事業として、天拝山歴史自然公園と“九州最古の仏跡”武藏寺を舞台に「つくしカルチャーフェスティバル」を開催しました。2017年度では第2回目として、この地域をさらに「魅力の豊富なまち」と印象付けるために、そして子どもたちにも楽しんでもらえるように「音楽」「食」に、加えてスポーツ体験や謎解きゲームなどの「体験」の魅力を加えてボリュームアップして開催。まちの魅力を感じ、この地域を愛する気持ちを強めていただくことをねらいとしました。



ラグビーフェスティバル 2017

つくしJCでは2013年度より「つくしスポーツ振興計画」を推進してまいりました。「ラグビーの盛んなまち」であるという魅力を地域全体に発信すべく、本年で5回目となる「ラグビーフェスティバル2017」を実施し、その中でトーナメント制の「第1回つくしJCカップ」を開催しました。また世界的な強豪ニュージーランド・オークランド代表チームを福岡に招聘、春日市・太宰府市にてラグビークリニック事業を開催しました。



初老の祝い

1月に太宰府天満宮において祈願を受けました。初老の年を迎えたことをお祝いすると共に、数え年40歳で男性は厄年を迎え、その厄を皆で分かち合いました。また同時に、その年の年末をもって卒業していく年でもあり、共に在籍する最後の1年の活動意欲を盛り上げていきました。



3月度 例会事業

太宰府天満宮余香殿にてご講演いただいたのは、2015年に公益社団法人日本青年会議所副会頭を務められた一般社団法人奈良青年会議所OBの森本勝也先輩です。JCメンバーとしての志の持ち方、またJCが無二の団体であるその魅力について熱くご講演いただきました。



第6回つくし寺子屋

本年で6回目となる本事業は筑紫地区を飛び出し、初の「県外進出」を果たしました。3日間にわたり、大分県玖珠郡金剛宝寺での「一期一会」の修行体験、九州最高峰の久住山への登山体験を行いました。

朝倉水害の復興支援

7月に発災した九州北部豪雨で被災された方が、1日でも早く元通りの環境や生活に戻れるための手助けをするべく2016年度入会メンバーを中心とする有志のメンバーが集い、9月から11月にかけて朝倉復興支援ボランティア活動を行い、被災者・被災地復興支援に取り組みました。



No. 1



No. 2





第47代理事長 別府 大輔

株式会社別府梢風園

スローガン

「不易流行」

～不变の志と先駆けの精神が生み出す
新たな価値の創造～

ご挨拶

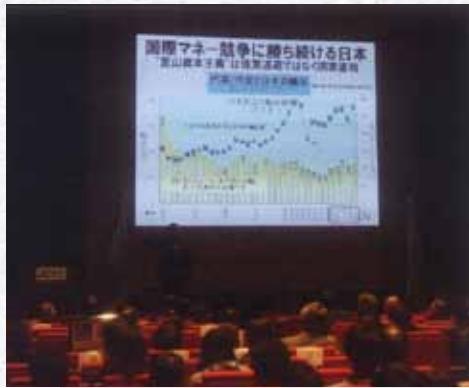
私たち一般社団法人つくし青年会議所（以後、JCIつくし）の活動エリア内において、那珂川町が単独市制施行という喜ばしい年度であり、一方で筑紫郡という呼称がなくなることを理解して、故郷の歴史やルーツを次世代へ伝えて繋いでいかなければならぬと想う年度となりました。

2013年度より継続開催してきた「ラグビーフェスティバル」は、これまでのラグビー関係者・協力者の皆様へ外部移管先が決定し、「ラグビーフェスティバル実行委員会」として地域住民の方々に引き継いでいただくことで新たなコミュニティを持つことが出来ました。また、翌年に控えたラグビーワールドカップ2019日本大会において、公認キャンプ地に春日市が認定を受け、輝かしい地域であることを再認識することが出来ました。そして、筑紫地区5人の市長をはじめ、各団体関係者をお招きした「筑紫地区未来フォーラム」では、「日本一住みやすい筑紫地区を目指して」という演目の下、地域の現状や課題に関する藻谷浩介氏の講話を拝聴しました。さらに、選舉に伴う公開討論会を九州初となるWEB配信を行い、次世代のスタンダードを確立しました。不易流行というスローガンの基、諸先輩方が繋がってきた「歴史や伝統」を引き継ぎつつ、「進化」するために「変化」を求めて、2018年度は新たな挑戦を行うことができました。

結びになりますが、2010年に入会以来、設立40周年・50周年に現役会員として迎えられることを大変嬉しく思います。これまでのJCI運動・活動で得た知識や経験を現役会員の皆様に託すと共に、JCIつくしの更なる発展と筑紫地区の隆盛を心より御祈念申し上げます。



つくしスポーツフェスタ2018 in 福岡県営春日公園



筑紫地区未来フォーラム in 九州国立博物館

主な事業

- 1月 太宰府市長選挙ネット討論会
- 4月 新入会者セミナー
- 5月 5月度講師例会 講師:江副直樹氏
- 6月 6月度例会事業 ビジネス活用セミナー
- 7月 つくし寺子屋2018
- 9月 つくしスポーツフェスタ2018
- 9月度講師例会 講師:小鹿野亮氏
- 10月 筑紫地区未来フォーラム
 - (第一部)魅力発信ミーティング
 - (第二部)基調講演 講師:藻谷浩介
 - ファミリー懇親例会
- 11月 新人アカデミー研修



第48代理事長 友石 淳

多田林産株式会社

スローガン

「活機応変」

～共に踏み出そう その一歩が未来を創る道となる～

ご挨拶

一般社団法人つくし青年会議所設立50周年、誠におめでとうございます。

私が理事長を務めさせて頂いた2019年は、全国の青年会議所がSDGsの考え方を取り入れ、各事業の効果を強く意識した年であり、私たちも、その場の雰囲気に満足するのではなく、構築した運動が地域の発展に繋がるのかについて、度々考える1年でした。

そのような中で様々な事業を実施させて頂きましたが、7月にはひとつくり事業として、設立40周年運動方針を基に毎年プラスアップを続けてきた「つくし寺子屋」を、地域で子ども達の教育現場に携わっている方々と共に開催し、得られた事業構築の知見を、地域教育に取り組むメソッドとしてまとめ、筑紫地区のコミュニティスクールへ発信をさせて頂きました。

また9月は、まちづくり事業として、2013年度より推進してきた「つくしスポーツ振興計画」の一つの節目であるRWC2019にあわせて「つくしラグビーフェスタ2019」を開催させて頂き、スポーツを「する」「見る」「支える」という視点から、スポーツに触れる機会が少なかった方々へその魅力をお伝えさせて頂きました。

青年会議所は単年度制と言われますが、この2つの対外事業は複数年に渡って、多くの方々と想いを共有し、運動を育み続けてきたからこそ得られた成果であったと思います。複数年に渡って私共の運動へのご理解とご協力を賜りました皆様へ、この場をお借りして心より感謝を申し上げますと共に、常により良くなる方法を模索し、ひたむきに挑戦を続けて頂きましたメンバーの皆様へ感謝を申し上げます。

青年会議所は、沢山の成長の機会を提供してくれます。これからも青年の学び舎として、地域の発展に向けた運動を通じて、筑紫地区、地域の方々、そしてメンバー一人ひとりに素晴らしい好機をもたらし、更なる飛躍を遂げられますことを心よりお祈り申し上げます。

主な事業

- 3月 3月度講師例会 講師：川原 正孝 氏
- 4月 4月度例会事業 講師：坪田 晋 氏
- 5月 5月度例会事業
- 6月 6月度例会事業「New Type Innovation」
講演：柳瀬 隆志 氏／山岸 勇太 氏
- 7月 つくし寺子屋2019 in 春日市
7月度講師例会 講師：小柳 俊郎 氏
- 9月 つくしラグビーフェスタ2019
- 10月 新人アカデミー研修「つくしビコロ2019」
10月度例会事業 講師：北貴之 氏



つくしラグビーフェスタ2019 in 春日公園



つくし寺子屋2019 in 春日市





第49代理事長 武藤 孝史朗

株式会社ホンダカーズ博多

スローガン

「結心」

～全てはよりよいまちの未来へ～

ご挨拶

設立50周年とし大きな節目を現役として、そして最終年度に迎えられることを大変嬉しく思うと同時に誇りに感じております。一般社団法人つくし青年会議所は1972年に設立されて以来、筑紫地区の明るい豊かな社会の実現の為に情熱を注いで来られた諸先輩方が一年一年大切に想いを繋いで来たことで、50周年という大きな節目を迎える事が出来ました。私自身、50年という尊い歴史の一翼を少しでも担えた事は、率直に嬉しく感じております。

私が理事長をお預かりした2020年度は、設立50周年を目前に控えた49年目として、周年準備という大きな担いを持って、順調にスタートを致しました。しかし、3月頃より新型コロナウィルスが猛威を振るい、計画していた事業のほとんどが中止という前例のない1年でありました。今までの当たり前が当たり前でなくなるという大変な状況で、私が経験してきたJC活動のどこにも解は見当たらず、本当にこれで良いのかを何回も自問自答させて頂いた1年だったと記憶しています。経済の不安定さやメンバーの心理的負担など、その当時はJC自体がなくなってしまうのではないかと心の底から思う時が何度かありました。しかしながら、JCが本来持つメンバー同士の強い絆によって、1年を乗り越えられたと今では強く感じております。それぞれが大変な状況においても、メンバーが知恵を出し合いながら少しでも歩みを進めた事、そして、今まで変化が出来なかった会議の在り方や方法など、今の時代にあった形で変化が出来た事は、活動が制限される中においても、非常に有益な時間であったと感じております。また、31年ぶりに福岡ブロック協議会会長を輩出させて頂いた事や、2022年度の第50回福岡ブロック大会を誘致出来た事は、福岡県内におけるつくし青年会議所の存在感を対外に表す事が出来たと感じております。

これから到来する不確かな世の中において、これまでの当たり前は益々通用しなくなっていくでしょうが、その様な時代だからこそ、青年会議所が果たす役割は大きくなっていくと確信しております。この先の明るい未来に向けて、メンバー一人ひとりが与えられた役割を果たしながら、地域の為になくてはならない団体であり続ける事、そして、メンバー一人ひとりが益々活躍できる事をご祈念申し上げます。設立50周年を心からお祝いさせて頂くと共にその大きな節目を共に迎える事が出来た事に改めて感謝申し上げます。



新型コロナウイルス感染症対策対応事業（筑紫地区5市への物資支援）



9月度例会事業



10月度例会事業

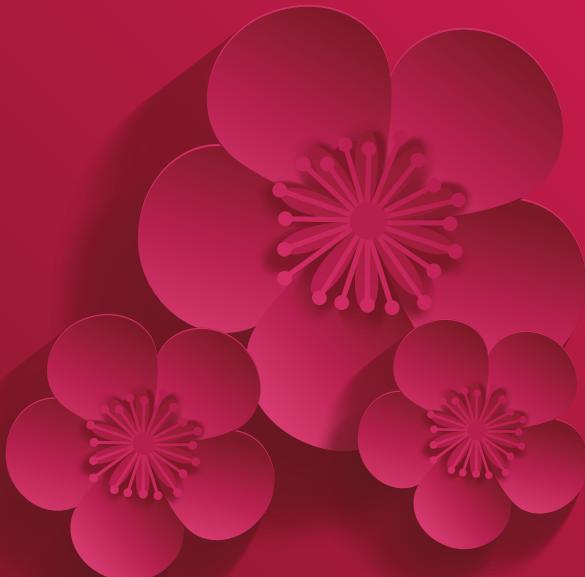
主な事業

- 1月 通常総会
- 2月 初老の祝い
- 3月 曲水の宴
- 7月 熊本県南部・福岡県内豪雨災害支援
新入会者セミナー
- 9月 新型コロナウイルス感染症対策対応事業
(筑紫地区5市への物資支援)
- 9月度例会事業 講演:久保 華園八 氏
- 10月 10月度例会事業 講演:朽網 一人 氏
11月度例会事業
講演:藤川 雅彦 氏／菊永 多聞 氏



つくし J C 設立 50 周年記念

運動方針
記念事業報告
記念式典



自然や歴史 文化とともに

働き暮らし



住み継がれる

つくしVISION2030

2030年 筑紫地区(筑紫野市・春日市・大野城市・太宰府市・那珂川市)がこの地に働き暮らす
経済の担い手たちが持続的に新しい価値を生みだすことのできる地域となることを目指します

古くは神功皇后の伝説に始まり、政治・経済の中心「大宰府政庁」が置かれるなど西の都として名をはせたこの筑紫地区は、他にも「水城」や「大野城」、長崎街道の筑前六宿にも数えられる「山家宿」「原田宿」など交通の要衝として多くの歴史・文化的遺産を擁し、地理的には西に那珂川の源流である筑紫耶馬渓、東に修驗道の靈峰として知られる宝満山に抱かれ自然豊かな地域としても知られています。近代にあっては相次ぐ合併や市制施行により地域としてその様相を大きく変えてきた経緯はありますが、産業基盤・流通拠点といった面で未だその潜在的な価値を活かしきれていない部分もありながら、就業機会の豊富な福岡市の南に位置し生活インフラを充足させてきたことで職住接近を実現し、豊かな暮らしができるまちとして栄えてきました。そして現代、筑紫野市・春日市・大野城市・太宰府市・那珂川市の5市は計43万人の人口、26万人の生産年齢人口(※1)を擁し、1.3万におよぶ事業所数、12万人のぼる従業者数(※2)は人口に対して比率が高いとは言えないまでも、観光業や農業・工業・サービス業など幅広い産業が地域経済を力強く支えています。

しかしながら一步先を見てみれば日本全体の人口は2010年の1億2,806万人をピークとし、筑紫地区各市の総合計画においても2025年ごろから人口減少に転じるものと予測されています。福岡市のベッドタウンであり観光による交流人口の多い筑紫地区と言えど、15歳から64歳までの生産年齢人口の減少、それに伴う少子高齢化がもたらすものは更なる人口減少の加速が呼びおこす経済規模の縮小であるとともに、福祉や教育、インフラやコミュニティの維持が困難になるということにほかなりません。これから時代はこういった課題の解決をはかりながら、一方で現状を積極的にとらえて豊かさを見出していくことによってより持続可能な地域経済を創りだしていくことが求められています。このような環境が筑紫地区を取りまくなか、この地域の発展を願い1972年に設立されたつくし青年会議所は本年度50周年を迎えて改めてこれからの50年を見すえて新たな一歩をふみだすこととなります。そこでまず考えたのは、この筑紫地区をそこに住まうすべてのひとが豊かな生活を送ることができる地域とするためには、次のような3つの要件があるということです。

地域経済を持続可能なものとするためには、この筑紫地区こそが経済の担い手となる人財を生み育て、彼らがその独創性を活かし、またひとのつながりを広げるなかで新しい価値を生みだす環境を備える必要があります。この将来像の実現により、この地域に住まうすべての人々の暮らし豊かなものとなり、そして時代を担う若者たちの夢みる未来が輝くものとなることこそが、私たちの願いであります。

※1 平成28年福岡県の人口と世帯年報より
※2 平成28年経済センサス 活動調査より



『新しい地域経済をデザインする』

新しい地域経済とは・・・

- ▶ 他者と競合しない個性と高い付加価値を持つ
- ▶ 周囲と連携とともに高めあう
- ▶ 寡占や格差を許容せず、持続可能な向上を目指す

この3つを要件とし、そのための提案を行い実現していく
(=デザイン)ための運動を展開・推進してまいります。



私たちはこの筑紫地区に根ざす青年経済人の団体として「明るい豊かな社会」の実現を目指し、この地域の発展を担う人財を育む運動を展開し、より広く多くの方にご参画いただこうと邁進して参りました。

そして今、誰にでもできること、どこにでもあるものが価値を失っていく一方で、誰一人取り残さない社会を実現することが求められていく時代に必要とされるのはこれまでののような大量生産・大量消費という量的な考え方から転換し、質的な向上によって持続可能な地域を生みだす人財です。なかでも幅広い産業構造と充実した生活環境をもつこの筑紫地区にとって重要なのは、高い付加価値をもつ独自性を培いつつ、周囲と連携し高め合うとともに、社会によい影響を及ぼすことのできる経済の担い手たちであると考えます。私たちは今後10年間の運動の先にある筑紫地区の姿として、このような経済の担い手たちが、それぞれの想いをカタチにすることを可能にする地域の将来像を提唱することといたしました。

歴史的・地理的な文脈をふまえつつ従来とは異なる切り口によって地域の特性を新たに見出し、経済に好影響を与える経済の担い手たちが継続的に輩出される環境を整えることは、つくし青年会議所が独力で行えることでは当然ありません。これまでの運動より広く、多く、そして強固な連携を図ることによって初めて可能となるものと考えます。



つくし J C 50 周年 記念 事業

ARTiVERS

DAZAIFU 2021



梅花の宴モニュメント in 坂本八幡宮 作者：杉田 廣貴

観光 × 芸術

～今と昔の芸術に出会える アートの街 太宰府～

太宰府市内各所がアートの街になる！
期間限定の芸術祭を開催

開催期間：2021年10月3(日)～10月17日(日)

アートスポット：太宰府市内各所

設立 50 周年を迎えるにあたり記念事業として『観光 × 芸術～ARTiVERS(アーティバース)～ DAZAIFU 2021』を開催しました。本事業は、滞在時間が非常に短く点の観光地となってしまっている太宰府天満宮界隈において、観光客を周辺エリアにも回遊してもらい、滞在時間延長による消費拡大を通じて経済活性化を狙います。それらをアーティスト(芸術家・美術家)と協業し、アートの力で地域を盛り上げる仕掛けを作りました。

- event -

梅花の宴モニュメント設置

10月3日(日)(除幕式)～期間未定(最長1年間)

まちなかアート作品展示

10月3日(日)～10月17日(日)

フードトラック出店

10月3日(日),9日(土),10日(日),16日(土),17日(日)

フォトコンテスト開催

10月3日(日)～10月17日(日)：インスタ限定





太宰府天満宮

天満宮には昔の彫刻家や画家がつくった逸品がそろいます。1300年以上の歴史と文化が織り成す浪漫に満ちながら現代アートとも出会えます。



九州国立博物館

国内外で活躍する、福岡に縁のあるアーティストたちのアート作品を展示しました。



旭地蔵尊

願掛けでお百度参り先としても地元で親しまれる旭地蔵尊の横に、インスタ映えする五色の絵馬と絵馬掛けを設置しました。悪縁を切り、本当の願いを叶えるために感謝して祈る『ありがとう絵馬』



日吉神社

音の波形をイメージして足を作ったローテーブルと神秘的な音楽。そして自然遺産にも登録されたこの森の木材や石の廃材を並べ、神秘的な空間を演出。



観世音寺

建築廃材で土台を築き、天板は太宰府天満宮でも使用されている城島瓦を敷き詰めることで、つながりを表現するとともに、むかし瓦屋根に上っていた日本人の生活を偲ぶSDGsモニュメントを制作・展示しました。



坂本八幡宮



設立 50 周年記念式典



日時：2021年10月24日（日曜日） 15：00 開式

場所：株式会社アシュランセミナー棟

【福岡県大野城市上大利5-21-1】

筑紫地区の5市の市長様、国會議員をはじめとし、日頃からつくしJCの活動を支えていただいている関係諸団体を代表する、各界各層のご来賓の皆様、そして、日本青年会議所野並会頭をはじめとするJC関係者の皆様、さらに、つくしJC 50年の歴史を紡いでいただいた歴代理事長の皆様にご臨席いただき、一般社団法人つくし青年会議所 設立 50 周年記念式典を執り行いました。

50周年という節目を迎え、更に60年、70年、そして100年と、この活動が連綿と受け継がれ、筑紫地区を盛り上げていくことを祈念しながら、地域の発展のため、明るい豊かな社会の実現のため、現役会員一丸となって今後も活動してまいります。

今後とも、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



主催者挨拶 第50代理事長 遠藤 尚吾



来賓祝辞 日本JC第70代会頭 野並 晃様



来賓祝辞 大野城市長 井本 宗司様



来賓祝辞 シニアクラブ会長 井上 孫紹様



鏡開き

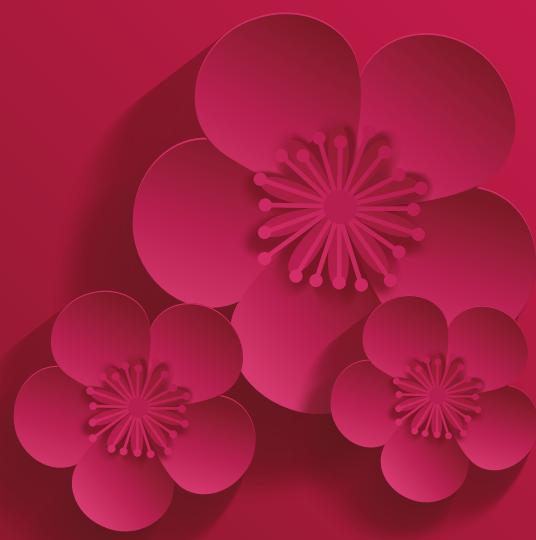


御来賓の方々

つくしJ C設立50周年記念

会員一覧

- ・正会員
- ・シニアクラブ会員並びに賛助会員



正会員

三役・直前・監事



理事長
遠藤 尚誉
有限会社マンブ



専務理事
前田 健之輔
筑紫ガス株式会社



直前理事長・監事
武藤 孝史朗
株式会社ホンダカーズ博多



事務局長
森 俊輔
ちくし法律事務所



副理事長
下田 賢作
株式会社エスブライト



常務理事
密井 大虎
ビットテック株式会社



副理事長
黒崎 直樹
黒崎建設株式会社



常務理事
小野 洋平
小野洋平司法書士事務所



副理事長
吉田 壮一郎
株式会社絹友



監事
別府 大輔
株式会社別府梢風園



副理事長
柴田 喜大
株式会社インキュア



監事
友石 淳
多田林産株式会社



春日の社
情熱・貢献
事

正会員

総務委員会



委員長
井筒 康貴
株式会社一新工業



委員
笠井 美保
株式会社 Jardin



委員
曲渕 大輔
アディオス / アデージョ



副委員長
竹田 豊
株式会社マイアミ



委員
藤井 喜朗
Air flow



委員
岩瀬 遼
株式会社西日本開発



副委員長
徳田 雄三
株式会社写真のトクダ



委員
林 大陽
株式会社 KIMCO



出向理事
柿本 大一郎
株式会社柿本建設



委員
諸永 文敏
株式会社エヌプロ



総括幹事
村田 智彦
医療法人光竹会
こう脳神経外科クリニック



委員
宮田 雄太郎
雄総業



運営幹事
山元 利乃
株式会社リノスタイル



委員
浦田 良太
株式会社 IAC GROUP



拡大広報幹事
松原 優一
株式会社 BARAN



委員
山本 理恵
武石商事株式会社



委員
田中 孝洋
田中住宅産業株式会社



委員
豊福 雄大
とよふく建装



正会員

まちづくり委員会



委員長 出光 公朝 太宰府天満宮	委員 青木 慎 青木食産株式会社	委員 中川路 匠 楽らくサポートセンター レスピケアナース
副委員長 中川 裕一郎 株式会社中川組	委員 春木 秀史 株式会社大好産業	委員 池永 善八 ソニー生命保険株式会社
副委員長 赤司 祥一 株式会社あかし	委員 久富 亮佑 有限会社キュウサン	委員 尾松 大輔 尾松行政書士事務所
総括幹事 土井 大輔 福岡ファッショナラボ True Color	委員 清水 宇宙 R H電工	
運営幹事 梅津 智史 株式会社 umidas	委員 川廣 純也 赤坂協同法律事務所	
拡大広報幹事 下澤 竜二 カーケアショップ R2	委員 玉田 隼也 合同会社 STEADY JAPAN	
委員 安武 現希 亞地亞産業有限会社	委員 小田 誠 弁護士法人 Bridge Roots	
委員 市川 淳也 株式会社西府堂本舗	委員 齋藤 功治 株式会社ケーエス産業	



正会員

会員拡大委員会



<p>委員長 菊地 大介 株式会社きくち 梅ヶ枝餅菓房 きくち</p>	<p>委員 金城 孝太 琉球料理 安</p>	<p>委員 丸山 稜太 株式会社エスポート</p>
<p>副委員長 春本 光大 幸光技建株式会社</p>	<p>委員 井上 亮尚 武藏寺</p>	<p>委員 大石 真吾 グレートヘルプ</p>
<p>副委員長 青木 秀樹 Aoki 企画</p>	<p>委員 松田 拓 株式会社 One's</p>	<p>委員 椿 陽介 さくらや</p>
<p>総括幹事 矢鉢 志成 司法書士・行政書士 やほこ事務所</p>	<p>委員 原竹 宏諭紀 令和工業</p>	
<p>運営幹事 岸本 大樹 大名総合法律事務所</p>	<p>委員 田村 政剛 T.Office</p>	
<p>拡大広報幹事 中原 麻衣 株式会社 A-BOND</p>	<p>委員 花田 裕二 飯笑かつやま</p>	
<p>委員 太山 高滉 株式会社ファーストライフ</p>	<p>委員 藤澤 晃輝 SSGC 株式会社</p>	
<p>委員 松下 広之 ホームメンテナンス</p>	<p>委員 山内 健太郎 筑陽石油株式会社</p>	

正会員

会員育成委員会



<p>委員長 草場 亮介 株式会社ディグナス</p>	<p>委員 水城 謙一 株式会社水城製粉</p>	<p>委員 山田 心介 鍼灸サロン BASE</p>
<p>副委員長 満永 久美 株式会社吉丁</p>	<p>委員 黒田 裕也 株式会社マーキュリー</p>	<p>委員 西依 雅広 佐藤・林法律事務所</p>
<p>副委員長 麻生 幸達 筑紫工芸株式会社</p>	<p>委員 廣松 真太朗 有限会社広松養魚場</p>	
<p>副委員長 古川 真也 有限会社お石茶屋</p>	<p>委員 難波 晴紀 株式会社日本パイプクリーニング</p>	
<p>総括幹事 藤本 創 鴻和法律事務所</p>	<p>委員 岡田 康太 日本経済大学</p>	
<p>運営幹事 味酒 安儀 太宰府天満宮</p>	<p>委員 田中 幸起 合同会社ネクストロード</p>	
<p>拡大広報幹事 小山 真行 伯東寺</p>	<p>委員 植野 凌 ASTEL</p>	
<p>委員 森田 美智 (福)慈生会 保育所慈生園</p>	<p>委員 梶原 智 多田林産株式会社</p>	



流れ
地
賀
公
進
ま
う

正会員

魅力発信委員会



<p>委員長 波多江 祐介 筑紫野市議会 波多江レンタカー</p>	<p>委員 西中 孝太 株式会社ウエスティン ユーポレーション</p>	<p>委員 渡邊 慎也 株式会社キャッスルハウス</p>
<p>副委員長 児嶋 秀晃 太宰府市役所</p>	<p>委員 安藤 健二 むく動物病院</p>	<p>委員 白金 未咲 株式会社アーリークロス</p>
<p>副委員長 北島 一志 株式会社北島技建</p>	<p>委員 半田 雄一郎 THREE " L " DESIGN</p>	<p>委員 沖 高志 株式会社くじら建設工業</p>
<p>副委員長 相川 雅俊 有限会社前田商会</p>	<p>委員 高橋 俊基 サクソフォン奏者</p>	<p>委員 岡村 康平 株式会社 OTK</p>
<p>総括幹事 樺本 圭司 株式会社 LOUFER</p>	<p>委員 木村 孝介 有限会社丸伸造園</p>	<p>委員 木下 秀和 soil</p>
<p>運営幹事 田所 敬規 青山地建株式会社</p>	<p>委員 川添 勇介 Nextate 株式会社</p>	
<p>拡大広報幹事 石堀 亮太 株式会社トップサポートカンパニー</p>	<p>委員 山下 優 株式会社 HONEST</p>	
<p>委員 井上 芳信 株式会社芳香園</p>	<p>委員 平山 優太郎 アクサ生命保険株式会社</p>	

シニアクラブ会員並びに賛助会員

■ 加藤 達夫	■ 萩林 和則	■ 池田 達昭	■ 柳原 莊一郎
■ 山村 徳二	■ 河内 孝文	■ 時安 尋次	■ 高橋 延郎
■ 福山 漢治	■ 川添 廣志	■ 青山 博秋	■ 赤司 泰一
■ 古川 増男	■ 中川 康隆	■ 井上 孫紹	■ 金谷 敏宏
■ 黒川 一正	■ 外園 令明	■ 吉村 美和	■ 植中 美紀
■ 高野 紘宇	■ 河村 普剛	■ 藤瀬 淳也	■ 平山 敬三
■ 市原 俊郎	■ 坂本 靖男	■ 竹井 正彦	■ 古屋 直樹
■ 田島 秀幸	■ 花田 稔之	■ 小島 利雄	■ 馬場崎 浩司
■ 上野 嵩良	■ 松丸 順子	■ 平島 剛	■ 塚 博紀
■ 長井 士郎	■ 奥膳 繁喜	■ 用松 信彦	■ 池田 隆浩
■ 牧山 恭久	■ 藤 謙二	■ 久保山 辰己	■ 田中 宏明
■ 栗山 政雄	■ 川村 博富	■ 松尾 嘉三	■ 牟田 明弘
■ 高野 ひろみ	■ 有吉 重幸	■ 土師 修一	■ 石橋 信宏
■ 魚住 明夫	■ 原 一郎	■ 神代 憲暁	■ 石井 大治郎
■ 河野 登喜子	■ 藤井 俊雄	■ 寺崎 盛行	■ 陶山 良尚
■ 田代 雅人	■ 石井 昌憲	■ 野田 和宏	■ 岩永 賢治
■ 村山 博俊	■ 安東 俊夫	■ 星野 清徳	■ 安田 慶泰
■ 前田 和美	■ 滝 利和	■ 木村 哲也	■ 黒川 宗人
■ 小鳥居 信行	■ 梶原 日出男	■ 太田 浩一郎	■ 執行 洋隆
■ 森部 節夫	■ 加納 義之	■ 出村 孝洋	■ 古川 和洋
■ 井本 宗司	■ 高田 敏夫	■ 用松 俊彦	■ 小栗 慶一郎
■ 西高辻 信良	■ 荒木 秀文	■ 井上 武	■ 坂本 大吾
■ 原竹 岩海	■ 井上 正満	■ 常住 久芳	■ 枝本 瑞樹
■ 味酒 安則	■ 前崎 浩一	■ 長濱 善博	■ 黒川 元博
■ 前田 健吾	■ 江藤 英次	■ 三條 裕士	■ 片山 幹
■ 井筒 康人	■ 吉野 英基	■ 永田 厳悟	■ 谷矢 隆介
■ 宮崎 隆	■ 樋口 昇	■ 中島 敬	■ 村上 明生
■ 別府 壽信	■ 磯村 亨	■ 北島 誠太郎	■ 河野 洋一
■ 樺島 恵子	■ 宮原 博幸	■ 田中 謙二	■ 市原 大輔
■ 水城 好則	■ 梅野 伸幸	■ 浮津 巍	■ 藤 信行

50周年
会員一覧

シニアクラブ会員並びに賛助会員

■ 楠田 大蔵	■ 武石 政太郎	■ 小柳 壮司
■ 松大路 信潔	■ 高橋 雅和	■ 阿部 隆春
■ 納富 徹	■ 古賀 美里	■ 西高辻 信宏
■ 木村 泰介	■ 作田 智幸	■ 友石 淳
■ 高松 昭博	■ 小川 伸太郎	■ 平山 泰弘
■ 梅野 洋充	■ 鬼塚 将志	■ 桑代 義孝
■ 廣田 貴之	■ ハリソン ハンボ フ	■ 赤木 公
■ 斎田 陽太郎	■ 田中 悠子	■ 石立 有
■ 山本 教貴	■ 藤井 清一郎	■ 寺側 厚慶
■ 高木 一宏	■ 井上 博隆	■ 吉村 匡弘
■ 岡崎 新一朗	■ 堀 大輔	■ 金子 直樹
■ 林 英樹	■ 本村 彰大	■ 中塚 将也
■ 福澤 信光	■ 松尾 奈津輝	■ 松尾 和博
■ 四宮 貴裕	■ 魚住 賢司	
■ 堀 悠祐	■ 坂本 新次	
■ 松尾 恭宜	■ 山本 良	
■ 川添 浩司	■ 清川 徳朗	
■ 谷口 直樹	■ 木下 光敏	
■ 大里 賢太郎	■ 野田 公一郎	
■ 寺崎 竜次	■ 藤原 知倫	
■ 鈴木 善一	■ 山下 信敏	
■ 岩橋 ひろし	■ 黒圖 謙人	
■ 岩渕 善道	■ 三好 拓児	
■ 久保 一宏	■ 小鳥居 寛貢	
■ 小川 嘉雄	■ 福山 隆一郎	
■ 堀 慎次	■ 栄木 秀一	
■ 日下部 寛行	■ 筒井 洋貴	
■ 真鍋 栄司	■ 二島 由基子	
■ 野本 和範	■ 野邊 謙史	
■ 德田 英明	■ 山田 素嗣	

■ シニアクラブ会員
■ 賛助会員



一般社団法人つくし青年会議所 設立 50 周年実行委員会

実行委員長 黒崎 直樹



本年度を迎えるにあたり、その準備は 1972 年の設立の経緯より、1 年 1 年の歩みを振り返るところから始まりました。諸先輩方が汗を流して筑紫地区の発展に尽力してこられた姿を、近年入会した多くのメンバーは目の当たりにしておりません。ただ引き継がれてきた記憶と記録、そしていま自分たちが活動するなかでつくし青年会議所という存在が地域のなかでいかに大きく根を張っているかに気づき、その功績を感じるに至るばかりです。そうした積み上げられてきた「歴史」と、これから活躍する若いメンバーたちの築く「未来」をつなげることがこの設立 50 周年の場に立ち会わせていただいた私たちの務めであると感じています。貴重な機会を賜りましたこと、またこれまでの運動・活動に多大なるご支援・ご協力をいただきてまいりましたことに改めて厚く御礼申し上げます。

感染症の影響により地域のために集うことが疎まれるという未経験の環境のなか、刻々と変わる状況に議論の結果を何度も覆されても、なお歩みを止めないことに注力してきたこの 2 年間。苦境に耐えつつも私たちが願う筑紫地区の「これから 50 年」をしっかりと見据え、設立 50 周年運動方針を「新しい地域経済をデザインする」と策定いたしました。これは決して経済的な豊かさばかりを追求するものではなく、人口減少や感染症といったリスクに適応し、勤労、教育、福祉といった生活を豊かにする機会に恵まれた地域を目指すことを念頭に置いております。

この運動方針の実践に向けて、本年度は記念事業として「ART i VERS DAZAIFU 2021」を開催いたしました。主要産業である観光業が打撃を受けているなか、歴史と文化という代えがたいコンテンツに現代アートという新たな魅力を組み合わせることにより、市民自らの力での持続的な経済発展につなげることが本事業の趣旨であり、コロナ禍のなか一定の成果を得たものと考えております。

次年度以降また様々なかたちで運動を実践し、筑紫地区の明るい豊かな社会の実現に向けて邁進してまいります。しかしながら、私たちつくし青年会議所の根幹にあるのはいつも設立スローガンである「自然と歴史と人間との調和～つくしは一つ～」の想いを引き継いでいくことあります。若輩ゆえに至らない点も多々あることと存じますが、何卒ご指導ご鞭撻のうえ、引き続きご支援ご協力を賜りますよう何卒お願い申し上げます。



一般社団法人つくし青年会議所
設立 50 周年記念誌

令和 3 年 11 月 30 日発行

編集 一般社団法人つくし青年会議所
会員育成委員会

発行 一般社団法人つくし青年会議所
設立 50 周年実行委員会

福岡県筑紫野市湯町 3-2-5
筑紫野市商工会館内
TEL: 092-924-8338

本書を許可なしに複製・転載することを禁じます

本記念誌に記載されている役職、会社名、その他のすべてのデータは 2021 年 11 月 15 日 現在のものです



2021 一般社団法人つくし青年会議所
設立 50 周年記念誌



須藤村の
白水水路
新長術作
った

50th ANNIVERSARY

JCI 一般社団法人つくし青年会議所
設立50周年実行委員会 50
012-2021